

キリスト教の伝来



* 一般郷土史料1675「フランシスコ・サビエル肖像」

解説

フランシスコ・サビエル（1506～52）は、日本に初めてキリスト教を伝えたスペイン人宣教師です。ナバラ王国の貴族の出身で、ロヨラと出会い、イエズス会創設に加わります。

インドやマレー半島で布教活動を行う中で日本への渡航を決意し、1549（天文18）年鹿児島に上陸、平戸などを経て翌年11月山口に到着します。しかし、大内義隆への謁見は不首尾に終わり、この時の山口滞在は得るものが少なかったようです。同年12月山口を発ち、1551（天文20）年1月には上洛しますが、京都では本来の目的を果たせないことを知り、目標を山口にしぼりました。

同年4月、再び山口に入り、珍奇な贈物とインド総督やゴア司教の推薦状を携えて大内義隆に公式に謁見しました。2度目の謁見は大成功で、布教を許可され、布教の拠点として廃寺を提供されましたが、同年9月には大友氏の招きに応じて山口を去りました。その後日本を離れ、中国伝道を志すも、広東省上川島で死去しました。

サビエル自身の山口滞在は通算でも6か月余りでしたが、ここでの活動が日本における布教活動の真の出発点であったと評価されています。その背景には、当時文化的にも最高水準を保っていた大内氏の城下町山口の繁栄がありました。

* 近年日本のクリスマスは山口からはじまったという説がクローズ・アップされています。また、ミサには音楽がつきものであることから、日本における西洋音楽発祥の地も山口だとする説もあります。その典拠は、以下の史料集です。

- ・「フロイス日本史」6巻第8章（『山口県史料』中世編上、465頁）。
- ・「耶蘇会士日本通信」（『山口県史』史料編中世1、1016頁）。

* 大道寺は、サビエルが活動の拠点とした日本最初のキリスト教会だとされます。しかし、正確には日本語で大道寺と呼ばれた教会なのか、大道寺跡に建てられた教会なのか、あるいは大内義隆が与えた廃寺と同じものなのか不明です。所在地も、現在のサビエル記念公園一帯とされますが、本圀寺周辺とする説もあります。